

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

英米文学専攻

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

英米文学専攻では、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究に関する包括的で深い専門知識と研究方法を有し、それに基づいて新たな知を創造し、研究成果を世界に発信する能力を備えた人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、博士（文学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （１）英米文学専攻において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
- （２）研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、英語および日本語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
- （３）英語を通じて異文化の文化的、歴史的、地理的特性を深く理解し、他者との交流を通じて課題を発見し、それを解決していくための議論や実践に資する高度なリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた研究者、教育者、実務家として国際社会に独自の貢献ができる。
- （４）英語・英米文学の研究を通して養った言葉や歴史、文化に対する洞察力や批判的思考力により、現代の人間、文化、社会の様々な課題について分析し、その解決に貢献できる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科・英米文学専攻（博士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、英語学、英米文学の領域において、英語学、英語史、中世英文学、近代英米文学、現代英米文学を対象とした講義演習科目群、ならびに文芸批評史、古典文学、言語学、比較文学などの関連科目から構成される教育課程を体系的

に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学会への独自の貢献に必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、議論構成力を養成するため、日本語ならびに外国語(英語)による特殊研究科目を設置する。また文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

学修成果の評価方法

英米文学専攻(博士)の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

博士学位取得のためには、学生は英米文学専攻が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、博士論文を文学研究科委員会に提出して受理される必要がある。さらにその後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査と副査によって論文が審査され、文学研究科委員会に報告された審査報告に基づき、文学研究科委員の投票によって合格しなくてはならない。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) 英米文学専攻において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
→英語学、英文学ならびに米文学、あるいは関連分野の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究科目を中心に履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度なリサーチ能力と課題発見能力、さらに英語による高度な論述力を養う。博士学位請求論文を提出するにあたっては、専攻が定める「博士の学位申請および論文審査に関する手引」に則って博士論文執筆資格審査に合格し、また論文提出までに同「手引」に定められた論文公刊や学会発表の条件を満たしている必要がある。
- (2) 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、英語および日本語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独

自の貢献ができる。

→特殊研究科目により、専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学会への独自の貢献に必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、議論構成力を養成する。さらに研究成果を学会や専門誌において発表する力を身につける。また海外の著名な研究者に、副指導教員としての博士論文の共同指導を依頼、あるいは副査として博士論文審査に加わることを要請することで、博士課程の学生の高度に専門的な研究を推進し、国際水準の博士論文の完成を目指す。

- (3) 英語を通じて異文化の文化的、歴史的、地理的特性を深く理解し、他者との交流を通じて課題を発見し、それを解決していくための議論や実践に資する高度なリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた研究者、教育者、実務家として国際社会に独自の貢献ができる。

→文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらに学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学院への博士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を通じて、個別の専門的研究を国際的かつ独創的に展開し、高度な異文化リテラシーを身につける。

- (4) 英語・英米文学の研究を通して養った言葉や歴史、文化に対する洞察力や批判的思考力により、現代の人間、文化、社会の様々な課題について分析し、その解決に貢献できる。

→領域横断的な特殊講義演習科目群、さらに他研究科および附属研究所の設置科目、文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目の履修により、広く人文科学領域に関する理解を深め、現代の人間、文化、社会の様々な課題について分析し、その解決に貢献できる力を身につける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
- (2) 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、日本語ならびに英語でまとめることができる。
- (3) 英語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、独創的な学術的論考を英語で緻密に展開できるアカデミックなライティングの能力を身につけている。
- (4) 研究資料を講読するに十分な第二外国語の能力を有している。
- (5) 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具

体的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、コースの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入学試験を、次の選抜方法により実施する。

一般入試

大学院修士課程または専門職学位課程修了者および修了見込みであること、大学院後期博士課程入学資格を有していること等を出願資格とし、筆記試験（第一次試験）および口頭試験（第二次試験）によって合否判定を行う。具体的には以下の通り。

- （１）筆記試験（選択言語）により、研究資料を講読するための第二外国語の能力を評価する。
- （２）筆記試験（専門科目）により、英語学、英文学、米文学の領域全般についての専門的知識を有しているか評価する。
- （３）筆記試験（指定言語）により、英語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる高度な読解力、及び学術的内容を英語で論じることができる高度かつアカデミックなライティングの能力を有するか評価する。
- （４）口頭試験により、博士論文に関する研究計画について自ら具体的に考え、その研究成果を日本語および英語で発信する高い能力を有するか評価する。